

姫路市内で得られたキンイロネクイハムシと寄主植物ミクリ類について

宮下直也¹⁾

はじめに

キンイロネクイハムシ *Donacia japana* Chujo et Goecke, 1956 は、環境省 (2020) で準絶滅危惧 (NT), 兵庫県 (2012) の県版レッドリストでCランクに選定されており、兵庫県内では存続基盤が脆弱な種とされている。本種の寄主植物であるミクリ類もまた、環境省と兵庫県の各レッドリストに選定されており、絶滅が危惧されている。キンイロネクイハムシは兵庫県内において、宝塚市、三田市、三木市、加東市、養父市で記録されているものの (兵庫県, 2012), その後の報告はない。筆者は本種を姫路市内で2020年に確認, 2021年に採集しており, 姫路市初記録であると思われるため報告する。なお先に述べた事情から, 現段階では発見場所の詳細な記述は控え, 生息環境や生息状況の記載にとどめる。

1ex, 兵庫県姫路市, 1-V-2020, 筆者確認 (図1);

2exs, 兵庫県姫路市, 3-V-2021, 筆者採集 (図2)

2020年 キンイロネクイハムシ発見

2020年5月1日, 姫路市内の住宅街に位置する公園 (A公園とする) の植え込みでキンイロネクイハムシを発見した。当時虫屋ではなかった筆者は, 見慣れない甲虫だと思い写真を撮った。後日調べてみたところ, ネクイハムシの仲間であることが分かった。林 (2004)



図1 キンイロネクイハムシ (2020年5月1日)。

に従って検索を行ったところ本種であることが判明した。

しかし, A公園の周囲にはミクリ類の生育は見られず, 発生場所に疑問が残った。A公園には河川 (B川とする) が流れている。B川はA公園付近では, 流路幅20mほどのコンクリート3面張り水路となっている。キンイロネクイハムシの発生場所として, B川の上流域を疑い, 何らかの要因で下流側へ流された本種が, たまたま植え込みに飛来したものと予想した。翌年, 本種を採集して発生場所を特定すべく, B川の上流域の調査を行った。

2021年 ミクリ類発見とキンイロネクイハムシ採集

B川の上流域は住宅街を流れる水路のようになっており, 護岸にはコンクリートが施されているが底面は泥や砂利となっている点でA公園付近とは河川環境が異なる。いくつかの地点でミクリ類 (ミクリとナガエミクリだと思われる) の群生が見られたため, その付近を中心にキンイロネクイハムシを搜索した。結果, 2021年5月3日, B川の2地点でそれぞれ1個体ずつキンイロネクイハムシを発見し, 採集することができた。底面が泥質で水流が滞留しているような環境で得られた (図3)。

B川的环境とミクリ類の分布について

追加調査としてミクリ類の分布状況を知るべく, B川の流路を調べてみると, 付近の河川 (C川とする) の水が水路を通じて流入していることが分かった (図4)。B川でミクリ類が見られたのはこの水路よりも下流側であった。C川ではこの水路の上流側と下流側の両方でミクリ類の生育を確認しており (キンイロネクイハムシは未発見), C川のミクリ類の種子や地下茎がこの水路を通じて運ばれ, B川にミクリ類が繁茂するようになったと考えられる。B・C川はともに同一の河川の旧河道に位置し, その伏流水を水源としている。B・C川はともに住宅街を流れており, ゴミの投棄が目立つため富栄養に見えるが, この湧水によりミクリ類が生育できる環境が保たれていると考えられる。現在は湧水量が減少しているが, 古い時代は豊かな水環境だったようである (姫

¹⁾ Naoya MIYASHITA 姫路科学館



図2 キンイロネクイハムシ (2021年5月3日).

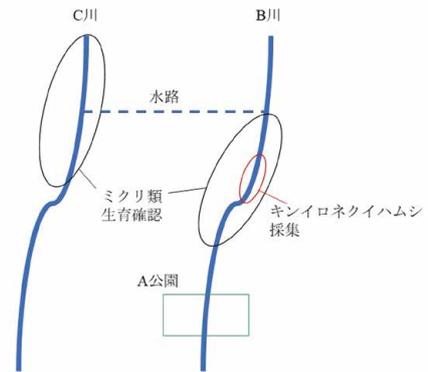


図4 A公園・B川・C川の位置関係.

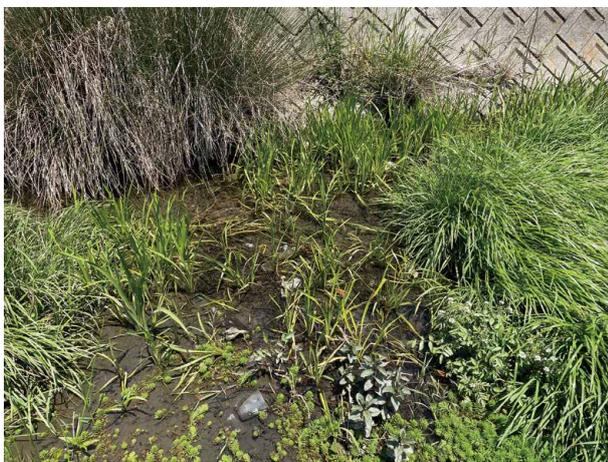


図3 生息環境.

本種は、水流が弱く底面が泥質でぬかるんだような環境を好むのではないかと、筆者は考えている。これについては、B川において幼虫を採集して確認する必要がある。

今後の展望

今回の採集状況から、B川におけるキンイロネクイハムシの個体数は決して多くないと考えられるが、このような街中においてB川は本種のレフュージアとして機能していると見られ、貴重な環境が残されていると言える。また、B川以外にも、先に述べたC川や市北部の水路にもミクリ類が生育していることが知られており、さらなるキンイロネクイハムシの発見に期待が持てる。キンイロネクイハムシの分布と生態について、引き続き調査を続けたい。

謝辞

最後に、調査にあたり助言を賜り、加えて、本稿をご校閲いただいた森正人氏にお礼申し上げる。

参考文献

- 環境省, 2020. 環境省レッドリスト 2020. (<http://www.env.go.jp/press/107905.html>)
- 国土交通省国土地理院. 地理院地図. (<https://www.gsi.go.jp/>) 2021年5月確認.
- 林 成多, 2004. 日本産ネクイハムシ亜科の絵解き検索による同定. ホシザキグリーン財団研究報告, (7): 127-136.
- 姫路市史編集専門委員会, 1998. 姫路市史 第七巻上 資料編 自然. 208-223.
- 兵庫県, 2012. 兵庫県版レッドリスト (昆虫類). (https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/jp/environment/leg_240/leg_289/leg_709)

路市史編集専門委員会, 1998).

キンイロネクイハムシの移動について

今回(2021年)本種を採集した場所は、昨年(2020年)本種を発見したA公園からは流路長にして2 km以上上流側であった。また、A公園の周囲の田畑などを確認したが、ミクリ類は発見できなかった。今回の発見場所からA公園に本種が飛来するとは考えづらく、A公園付近で発生している可能性も低いことから、上流側から流された可能性が示唆された。上流側では水路脇が遊歩道ようになっており、5月ごろに草刈りが行われる。この草刈りによって流された草体上に、本種がとまっていたものと推測される。場合によっては下流域へ分布を広げうる、1つの仮説として提唱する。

キンイロネクイハムシの発生生態について

今回採集された個体はいずれも図3に示したような生息環境で得られたが、B川ではミクリ類がより高密度に繁茂している場所も見られた。しかしそのような場所ではキンイロネクイハムシを発見できていない。ミクリ類の生育以外にも、流速や底質環境といった要因が、発生や幼虫の生存に影響を及ぼしているものと考えられる。